



企業×地域福祉の可能性

地域の困りごとへの新たな関わり方

記事：月田 尚子



体調が芳しくない母親を気遣い、誕生日ケーキをプレゼントしてあげたい田中桜菜さん。彼女の願いを叶えるために、久留米ガス株式会社(以下久留米ガス)は企業の立場で協力しました。企業が地域福祉に参加することはどういう意味があるのでしょうか。総務部の廣木孝行さんと權藤丞さんにお話を伺いました。

企業はもつと地域のことを知るべき
久留米ガスは、「ガスを通じて安全で快適な暮らしを提供していきます。」という企業理念の下、さまざまな地域貢献事業を実施しています。久留米市が企業と市民活動が協働することを推進し始めたこと、久留米市と久留米ガスが包括連携協定を結び、その中に「地域の困りごとを解決する」という項目があったこと、などが重なり、地域貢献の方法が、寄付や市の行事参加から地域の方々と共に活動する方向に動いていました。そんな中、AU-formal実行委員会(以下AU)から相談が舞い込みます。新しい福祉の形「叶え合う支援」を一緒に実現しませんか、と提示されたメニューの一つに「お母さんの誕生日ケーキを作る」という項目がありました。

「これなら受けることができそうです」と思いました」と權藤さんは振り返ります。久留米ガスにはキッチンスタジオがあり、料理教室を開催しています。權藤さんは早速「地域のお困りごとの解決をやりましょう」と社内に打診。「これから私たちは少子高齢化などいろいろな課題と向き合わなければならぬ。企業が地域を知ることとはとても重要

だと思えます」と廣木さんも語ります。

ケーキ作りの講師は社員が担当することにりましたが、講師をするのは彼らにとって初めてのこと。業務上、中高生世代との接点はほぼなかったため、田中さんが楽しめる雰囲気をつくれるか不安がありました。そこで、權藤さんは、田中さんにとってお兄さん、お姉さん世代になる若い社員に声をかけました。「予行練習で作ったケーキは焦げてしまいました(笑)。難しさもありましたが、楽しみながらできました」と話す權藤さん。当日参加したのは田中さんを含む3人の女の子。最初は緊張した面持ちでしたが、だんだんと笑顔が増えてきました。教室終了後、田中さんから「出来上がったケーキを持ち帰ったらお母さんがとても喜んでくれた」とAUに報告があったそうです。担当した久留米ガスの社員たちは、地域貢献活動に初めて参加する人が多く「こんなやり方もあるのか」と驚いていたそう。このことをきっかけに、子ども向けのイベントにブース出展をし、子どもたちに関わることも増えてきたそうです。

「叶え合う支援」は
地域福祉に関わる第一歩



課題を抱えていて、大変なことをしなさいと解決できないイメージがあります。」だから第一ステップとして、こういう形で社員が関わられたことはとてもいい方法だと思えます。このような活動に社員を誘うときは、目的や背景を先に説明するのではなく、相手の興味に合わせて声を掛けていきます。「こういう人がいて」と説明すると、その時は参加してくれるかもしれないけれど続かない。だからこそ、楽しい企画にすることを強く意識しています。」

参加した社員から「他には何かないの?」と聞かれることもあるそう。「尋ねた社員は地域福祉に関わっているという意識はありません。でも実は地域福祉につながっている。こういう流れが出来たことはとてもいいことだと思います」と話す廣木さん。この流れを他の企業に、そして地域で暮らす私たち一人一人に繋げていくことが、AUが目指す場所になるんだな、と感じた取材でした。

その他久留米ガスとAUの取り組み

2024 11月 マラソン大会の実施

家で過ごしていた期間が長く、就労相談をしていた男性2人が福岡マラソンに挑戦。その活動を応援するために、マラソン経験がある社員と共に小さなマラソン大会を実施。給水所を2カ所作りゴールテープを準備するなど、本番さながらの演出をしました。



2024 12月 キャッチボール会の実施

道具も経験もないが野球をやってみたいと言う男の子3人に対し、野球経験がある社員と共に市内の広場でキャッチボール会を実施。AUメンバーも含めて18人が集合。小学生から50代までの幅広い年代の人々が子どものように大声で笑い、ボールを追いかけていました。



事業を担う「個」の集合体 久留米 AU-formal 実行委員会

市民活動団体に活動する個人が集まり結成。今年度から参加支援事業を担います。

グッチョ Vol.36 特別号

AU-formal Project Instagram



特別号
叶え合う支援
詳細掲載!



久留米ガス株式会社
左：權藤 丞さん 中央：吉田 充智代さん 右：廣木 孝行さん

